

Brooklyn DAC+の活用(4) —MQA-CD 再生時のクロック同期—

1. はじめに

Brooklyn DAC+の導入(7)において MQA のデコードとクロックの設定において MQA のデコードは、Brooklyn DAC+のクロックの設定を IN の場合のみ可能で、INT と WCK ではデコードできませんでした。

本件に関し、ディーラーとの質疑応答で、MQA のデコードは送られてくるクロックと打ち直しをするクロックの僅かなずれが問題を起こしているらしいことが分りましたので、クロックの同期をより厳密に取ることを試みました。

2. Brooklyn DAC+の試聴方法

クロック入力のあるトランスポートとしてマランツ SA11-S2 を使用します。

【INT のクロック同期】

INT については、Brooklyn DAC+から、トランスポートにクロックを戻して同期を取ることを試みてみます。即ち、Brooklyn DAC+のクロックの設定を 44.1KHz (INT) に設定して、Brooklyn DAC+のクロック出力を SA11-S2 のクロック入力端子に入力することを行います。

【WCK のクロック同期】

WCK 入力については、クロックディストリビューターを使用して同期を取ってみます。クロックディストリビューターはインフラノイズの CCD-6 を使用し、Brooklyn DAC+のクロックの設定を WCK にして、次のようにクロックの同期を取ります。

GPS-777 (44.1KHz) → CCD-6 → Brooklyn DAC+クロック入力

→ SA11-S2 クロック入力



GPS-777



CCD-6

3. Brooklyn DAC+の試聴結果

上記の INT のクロック同期により、SA11-S2 により MQA-CD の再生を開始すると、Brooklyn DAC+の MQA のランプが点灯し、表示は、352.8KHz24bit となり、正常な MQA のデコードが可能となりました。

上記の WCK のクロック同期により、SA11-S2 により MQA-CD の再生を開始すると、Brooklyn DAC+の MQA のランプが点灯し、表示は、352.8KHz24bit となり、正常な MQA のデコードが可能となりました。

音質は INT のクロック同期より WCK のクロック同期の方が、GPS-777 の高精度 GPS クロックを使用している分、緻密で音楽のニュアンスをよく伝えてくれます。

以上の結果を、オーディオ資料室の [Brooklyn DAC+クロック入力選択表 4](#) に追記しました。

4. まとめ

トランスポートからの S/PDIF 入力における MQA-CD 再生時のクロック同期を見直し、Brooklyn DAC+のクロックの設定の INT と WCK で MQA のデコードが可能となりました。

以上